



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2013 : 年次記録 : 持続可能な社会の構築に向けた学び
Issue Date	2017-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65277
Type	report
File Information	chapter-1.pdf,



1. サステナビリティ・ウィーク 2013 の概要

本年の特徴

- ・開催テーマ : 持続可能な社会の構築に向けた学び
- ・メイン期間 : 2013 年 10 月 26 日 (土) ~2013 年 11 月 10 日 (日)
- ・企画数 : 40 企画
- ・企画実施期間 : 2013 年 9 月 10 日 (月) ~2013 年 12 月 10 日 (火)
- ・参加者数 : 59,742 人
- ・特筆事項 :
 - 2014 年に国連「持続可能な開発のための教育の 10 年」キャンペーンが最終年を迎えるのを前に、教育の受け取り手である「学ぶ人」に焦点を当てた企画を重点的に支援した。
 - 「サステナビリティ学生環境シンポジウム」や「資料展示：サステナビリティって、なに?」、「プレゼン・ディベート大会」、「サステナブル・キャンパス・コンテスト」など、学生が主体的に企画もしくは学生が議論を主導する行事が、全 40 企画のうち 11 企画を占めた。
 - 「サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト」は 5 年目を迎え、81 人の参加による国内大会に加え、国際大会を初めて開催した。本学を含め世界 7 大学で学内予選を勝ち抜いた参加者 19 人が参加した。これまでの 5 年間で約 450 人の学生が参加した。
 - 国連「ミレニアム開発目標 (MDGs)」期間の最終年を迎え、国連寄託図書館である本学附属図書館は、MDGs 達成に向けて立ち上がるイベント「STAND UP TAKE ACTION in Hokudai」を開催した。
 - 附属図書館は、学術文献を誰もが読めるようにする HUSCAP (北海道大学学術成果コレクション) の取り組みの重要性を伝えるべく、「世界へ伝える、未来へつなぐ」と題したポスター展示を開催し、持続可能な社会の構築に向けた知的生産物の共有を呼びかけた。
 - 複数の展示企画に加え、映画やベロタクシーといった大規模な行事に

よって、参加人数が5万人を超えた。本年を含めた過去7年間の参加者累計は12万人を超えた。

❖ 総長あいさつ

「持続可能な開発」の実現に資する研究と教育を加速させ、国際貢献に寄与することを目的に、北海道大学は2007年から「サステナビリティ・ウィーク」を開催し、環境問題やサステナビリティに関する市民講座や国際シンポジウムを実施してきました。

これまで、気候変動への適応や貧困の撲滅、自然との調和が求められる今日の課題に対応して、低炭素社会の構築や北海道のポテンシャルを活かした社会のモデルを示していくような研究など、活発な議論・取り組みが行われてきました。

今年のテーマは「持続可能な社会の構築に向けた学び」です。「学び」とは、単に知識を詰め込のではなく、主体的に学び、自らを高める意味があると考えます。それには、自分の考えを持つことが大切です。安心できる暮らしは、自然発生的に生じるものではなく、私たちひとり一人が叡智と心を尽くして作り上げていくものです。

今年のサステナビリティ・ウィークでは、多様な価値観や考えに触れ、融合（寛容）し、議論し、学ぶ機会として、多数の企画を用意しました。特に、今回で5回目を迎える学生研究ポスターコンテストでは、新たな試みとして、海外協定校からの学生を交えた国際大会を実施します。また、学生が自ら企画し、学ぶ機会を作ろうという企画も増えました。

続くいのちのために、そして今あるすべてのいのちが大切に営まれていくために、これまでの歩みを振り返り、すべての人々にとってのサステナブルな社会とは何か、そしてその実現のために私たちにできることは何かを共に考え、「学ぶ」機会となりますことを願っております。



北海道大学総長 山口 佳三

北海道大学 総長 山口 佳三



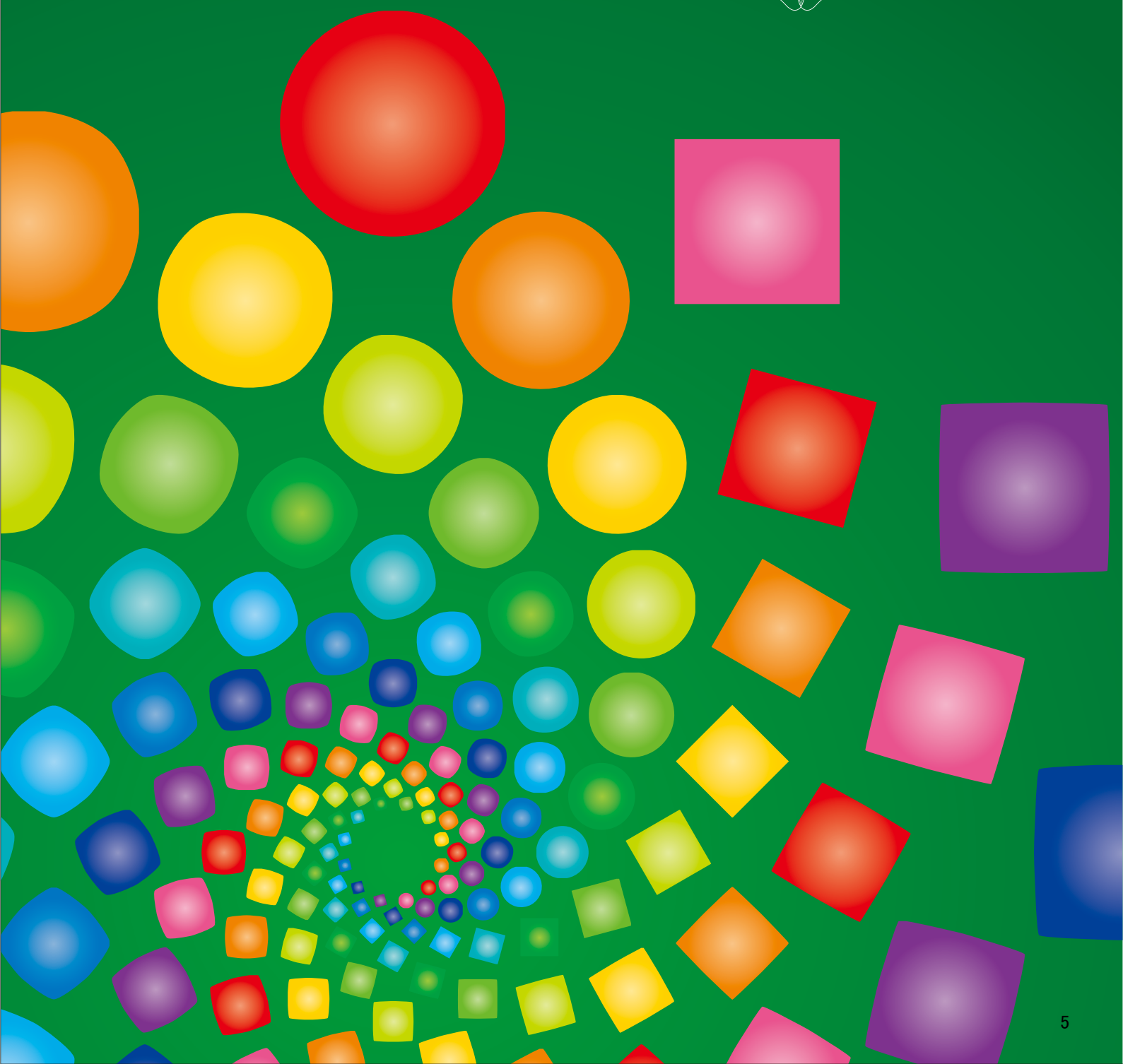
サステナビリティ・ウィーク 2013

「持続可能な社会の構築に向けた学び」

フェスタ
国立大学2013 JANU



北海道大学





北海道大学 総長
山口 佳三

ごあいさつ

「持続可能な開発」の実現に資する研究と教育を加速させ、国際貢献に寄与することを目的に、北海道大学は2007年から「サステナビリティ・ウィーク」を開催し、環境問題やサステナビリティに関する市民講座や国際シンポジウムを実施してきました。

これまで、気候変動への適応や貧困の撲滅、自然との調和が求められる今日の課題に対応して、低炭素社会の構築や北海道のポテンシャルを活かした社会のモデルを示していくような研究など、活発な議論・取り組みが行われてきました。

今年のテーマは「持続可能な社会の構築に向けた学び」です。「学び」とは、単に知識を詰め込むのではなく、主体的に学び、自らを高める意味があると考えます。それには、自分の考えを持つことが大切です。安心できる暮らしは、自然発生的に生じるものではなく、私たちひとり一人が叡智と心を尽くして作り上げていくものです。

今年のサステナビリティ・ウィークでは、多様な価値観や考えに触れ、融合（寛容）し、議論し、学ぶ機会として、多数の企画を用意しました。特に、今回で5回目を迎える学生研究ポスターコンテストでは、新たな試みとして、海外協定校からの学生を交えた国際大会を実施します。また、学生が自ら企画し、学ぶ機会を作ろうという企画も増えました。

続くいのちのために、そして今あるすべてのいのちが大切に営まれていくために、これまでの歩みを振り返り、すべての人々にとってのサステナブルな社会とは何か、そしてその実現のために私たちにできることは何かを共に考え、「学ぶ」機会となりますことを願っております。

1

10月26日(土) 14:00 ~ 16:30

サステナビリティ・ウィーク2013 記念企画

GiFT 2013 ~ Global Issues Forum for Tomorrow ~



a 持続可能な社会の実現のために世界の重要課題に挑んでいる北海道大学の研究者6人が研究の意義や面白さを各15分間で伝え、課題解決に取り組む仲間を世界中から募ります。講演は北大札幌キャンパスに設置される会場もしくはインターネット生中継で聴くことができます。また、後日、アーカイブ映像を楽しむことも可能です。

b 北海道大学 学術交流会館 第1会議室 **c** 英語 **d** 必要(無料)メールまたはウェブサイトにて10/25(金)まで受付
e 北海道大学 **f** 北海道大学 サステナビリティ・ウィーク事務局(国際本部内) TEL: 011-706-8031
E-mail: sw1@oia.hokudai.ac.jp 

● 生 中 継 Ustream チャンネル <http://www.ustream.tv/channel/gift2013>

● アーカイブ YouTube チャンネル <http://www.youtube.com/user/hokkaidouniv> GiFT 公式サイト <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/gift/>

オープニング挨拶 上田 一郎 / Ichiro Ueda 北海道大学理事・副学長 / サステナビリティ・ウィーク実行委員長



エマ クック / Emma Cook

タイトル: 日本青年がかかえる悩み
Creating Unsustainable Lives: Effects of Gender Norms on Male Freeters

● 専門分野/文化人類学 ● 最近の研究課題/日本のフリーター
● 所属/留学生センター



根岸 淳二郎 / Junjiro Negishi

タイトル: 未来に向けて川を読み解く
Reading Rivers for the Future

● 専門分野/応用生態工学、生態系生態学 ● 最近の研究課題/流域保全管理、生態系管理 ● 所属/地球環境科学研究所



フィリップ シートン / Philip Seaton

タイトル: 大河ドラマ地の光と影
TV Dramas & Tourism, Japanese Historical Site as Sustainable Tourist Resources

● 専門分野/日本史・メディア学 ● 最近の研究課題/北海道における歴史と戦争 ● 所属/留学生センター



ヘレナ フォルトゥナート / Helena Fortunato

タイトル: 酸性化する海と生き物たち
Living in an Ocean of Vinegar

● 専門分野/進化学・生態学 ● 最近の研究課題/浅海大型底棲生物群集の多様性・進化・保全 ● 所属/理学研究院



スザンネ・クリーン / Susanne Klien

タイトル: 都会を離れはじめた若者たち
Relocating to the Countryside in Contemporary Japan: The Quest for Purpose in Life (ikigai)

● 専門分野/観光学 ● 最近の研究課題/幸福に関する研究
● 所属/留学生センター



木村 克輝 / Katsuki Kimura

タイトル: 賢明な都市内水利用のあり方—膜技術が世界を救う—
Wise Water Use in Future Cities: Membrane Technology will Save the World

● 専門分野/環境工学、水処理工学 ● 最近の研究課題/膜を用いた排水処理 ● 所属/工学研究院

【凡例】

0

行事名

日時

- a 概要 b 会場 c 言語
d 申し込み(参加費) e 主催
f 共催 g 問い合わせ先

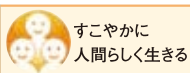


このマークが付いている行事は、ウェブサイトから参加の申し込みができます。

【参加申込み】

<https://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/application/>

バックの色は各行事のテーマを表現しています。



北海道大学 サステナビリティ・ウィーク 2013

未来への学び



叡智(えいち)や課題を分かち合い共感することを通じて、
新たな未来を切り開く心、ちから、仲間を育みます。

2

学生企画

9月10日(火)~12日(木) 9:00~17:00

第2回 サステナビリティ学生環境シンポジウム 持続可能な消費 一食の未来に向けて、私たちができることー

- a 今後、増え続ける地球人口を支えることは可能なのか、持続可能な食の消費とはどのようなことか、日本と世界の消費例を参考に、将来の世代の食を約束するために今できる選択について考えてみましょう。食に関わる様々な立場の講演者をお招きしその経験やアイデアを伺います。地球にとってより健康的な食生活を模索しましょう。本シンポジウムは世界学生環境サミット(WSES)の北大版として開催されます。
- b 北海道大学 サステナビリティ学教育研究センター c 英語 d 必要(無料) E-mailにて8/31まで受付 e サステナビリティ日本学生ネットワーク、WSES同窓生 f 北海道大学 工学部 掛川恵梨子 TEL: 080-4045-3972(~8/31まで)、工学部 金子秀人 TEL: 090-3776-6399(9/1から) E-mail: wsenhokudai@gmail.com URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/wsen/>

3

10月17日(木) 18:20 ~ 19:10

STAND UP TAKE ACTION in Hokudai

- a 貧困をなくすために「立ち上がる」世界的キャンペーンを、本学でも、昨年に引き続き、開催します。国際協力活動を行っている学生たちが活動を通して何を学んだのかを発表し、世界の貧困解決のために自分に何ができるかをともに考えます。最後にみんなで立ち上がり、集合写真を撮影。イベントの様子は世界のリーダーへ報告されます。さあ、立ち上がりましょう!
- b 北海道大学附属図書館 本館 メディアコート c 日本語(一部、英語による発表あり)
- d 不要(無料) e 北海道大学附属図書館/国連寄託図書館 f JCK北海道事務局、TICAD V 学生プロジェクト 北海道事務局 g 北海道大学附属図書館 利用支援課 城恭子 TEL: 011-706-3615 FAX: 011-746-4595 E-mail: ref@lib.hokudai.ac.jp URL: <http://www.lib.hokudai.ac.jp/standup/>

4

10月21日(月)~11月4日(月・祝)

図書館展示 学術成果のオープンアクセスとHUSCAP ~世界へ伝える・未来へつなぐ~

- a 学術雑誌を無料でインターネット上に公開し、経済的障壁なく誰もが読めるようにしよう、という活動(オープンアクセス運動)が盛んになっています。本学においても、HUSCAP(北海道大学学術成果コレクション)は、大学の知的生産物をサーバにアーカイブし、世界に向けて公開しています。今回の展示では、オープンアクセスとHUSCAPの取組みについて紹介します。
- b 北海道大学附属図書館 本館 正面玄関ホール c 日本語 d 不要(無料)
- e 北海道大学附属図書館 f 北海道大学附属図書館 学術システム課 TEL: 011-706-2563 E-mail: huscap@lib.hokudai.ac.jp URL: <http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/>

5

10月23日(水) 18:15~19:30

北大×JICA 連携企画 持続可能な社会をつくる日本の海外ボランティア ~青年海外協力隊活動報告~

- a 持続可能な社会づくりへの貢献を目指した草の根レベルのボランティアの基本は、現地の人々とともに生活し、働き、彼らと同じ言葉で話し、相互理解を図りながら、彼らの自助努力を促進するように活動することです。その基本に沿って途上国で活動したJICA青年海外協力隊のOB/OGによる報告を通して、国際協力とは何か、持続可能な社会の実現のためにはどうすればよいのかを共に考えましょう。
- b 北海道大学 国際本部 c 日本語 d 不要(無料) e JICA北海道 f 北海道大学 国際本部 g 北海道大学 国際本部 国際連携課 榎本宏 TEL: 011-706-8030 FAX: 011-706-8036 E-mail: enomoto@oia.hokudai.ac.jp URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/jica/>

6

10月26日(土)~31日(木) 9:30-16:30
11月1日(金)~10日(日) 10:00-16:00

白夜の北極紀行 グリーンランドと氷河氷床調査に関する企画展示

- a 急速に変化する地球環境において、人類は、自然を理解し、自然の営みと調和し、時には自然の変化に合わせてながら社会活動を進める必要があります。本展示では、近年特に変動の激しい北極、グリーンランドの環境とその科学的な調査を紹介することによって、地球環境と調和して、持続可能な社会を築くことの必要性およびその術を提案します。
- b 北海道大学 総合博物館 c 日本語 d 不要(無料) e 北海道テレビ f 北海道大学 低温科学研究所・総合博物館 g 北海道テレビ 寺内達郎 TEL: 011-824-4141 FAX: 011-812-1764 E-mail: tterauchi@htb.co.jp URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/greenland/>

7

学生企画

10月31日(木)~11月4日(月・祝)

CLARK THEATER 2013

- a 「映像・映画を通じたコミュニケーションの場の創造」を目指し、長編&短編作品、監督さんなどをお呼びしての企画を楽しむことのできる映画館を期間限定で開設します。8年目を迎えた本企画の今年のコンセプトは「めぐり逢う、映画感」。映画を観るという共通の経験を介して、持続可能な社会構築に向け、学び、交流する機会を提供します。応用倫理研究教育センターとの協同企画も開催する予定です。
- b 北海道大学 クラーク会館 講堂 c 日本語・英語 d 不要(有料、一部無料プログラムあり)
- e 北大映画館プロジェクト f 北大映画館プロジェクト TEL: 080-1880-9596 E-mail: info@clarktheater.jp URL: <http://www.clarktheater.jp/>

8



11月1日(金) 15:00 ~ 17:00

留学希望者向けセミナー SD on Campus

- a HUSTEP(北海道大学短期留学プログラム)の留学生が、自らの大学の魅力をアピールします。各大学において「持続可能な社会の実現(SD)」に向けてどのような教育を行い、学生が授業内外でSDにどのように関わっているかを、学生の目線で発表します。留学に興味のある人だけでなく、海外の他大学のSDの取り組みに関心のある人は、この機会をお見逃しなく!
- b 北海道大学 国際本部 c 英語 d 必要(無料)ウェブサイトまたはメールにて10/31まで受付 e 北海道大学 国際本部 f 北海道大学 国際本部 国際支援課 河野公美 TEL: 011-706-8053 FAX: 011-706-8068 E-mail: jryugaku@oia.hokudai.ac.jp URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/sd/>

9

11月5日(火)~7日(木) 9:00~17:00

第5回 北海道大学 サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト

- a 本学の学生が、自らの研究を「持続可能な社会づくりへの貢献」という観点で見つめ直し、ポスターにまとめて発表します。11月5日には、発表者がポスターの横に立って説明をし、来場者の質問に答えます。また、同日に審査が行われます。学生が未来をどう見据え、何を研究しているのか、そして研究ポスターとはどのようなものかを知る良い機会です。
- b 北海道大学 学術交流会館 ホール c 英語・日本語 d 観覧者: 不要(無料)、発表希望者: 必要/ウェブサイトから募集要項をダウンロードし、応募用紙を10/16までに提出。
- e 北海道大学 f 北海道大学 サステナビリティ・ウィーク事務局(国際本部内) TEL: 011-706-8031 E-mail: sw2@oia.hokudai.ac.jp URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/students/>

10 11月6日(水) 15:30~17:30

北大アフリカ研究会シンポ アフリカで活躍する北大の研究者たち ～つながる北大のアフリカ研究ネットワーク～



- a アフリカは目覚ましい発展を遂げようとしており、同地域の持続可能な社会の構築は、重要なトピックです。しかし、政治、経済、環境等の問題が山積し、複雑に絡まりあっているため、議論には分野横断的なアプローチが求められます。そのため、昨年、同地域の研究に関わる本学研究者が集まり「北大アフリカ研究会 (HURNAC)」を立ち上げました。本企画では、メンバーがそれぞれの取り組みを多様な視点から紹介します。
- b 北海道大学 学術交流会館 第1会議室 c 日本語 d 不要(無料)
- e 北海道大学アフリカ研究会 e 北海道大学 工学研究院 牛島健
TEL: 011-706-6273 FAX: 011-706-6273 E-mail: uken@eng.hokudai.ac.jp
URL: http://aa.vetmed.hokudai.ac.jp/africa/

11 Web 11月6日(水) 13:00~18:00

サステナブルキャンパス国際シンポジウム2013 ～地域と連携したサステナブルキャンパスの構築～

- a 地域や民間企業と連携した今後のサステナブルキャンパス構築についての知見を得ることを目的にシンポジウムを開催します。欧州と国内の大学による先駆的取り組み事例、ならびに、今年度新たに始まった本学と札幌市とのエネルギービジョンに関する取り組みを紹介します。
- b 北海道大学 学術交流会館 講堂 c 英語・日本語(同時通訳) d 必要(無料)
ウェブサイトより受付 e 北海道大学 サステナブルキャンパス推進本部・施設部、一般社団法人国立大学協会 e 北海道大学 サステナブルキャンパス推進本部 森本智博
TEL: 011-706-3660 FAX: 011-706-4884 E-mail: osc@osc.hokudai.ac.jp
URL: http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/sc2013/

12 11月7日(木) 13:30~16:30

産学官セミナー 地理空間情報が招く未来V ビッグデータの衝撃

- a 「ビッグデータ」とは、ITやインターネットの発達にともなって蓄積された巨大データで、環境・経済・防災など様々な分野で活用が検討されています。持続可能な社会を目指す上で社会問題解決やリスク回避のために、このビッグデータをどのように活用すべきか、「ビッグデータの衝撃」(東洋経済)の著者・城田氏を招き、セミナーを開催します。
- b 北海道大学 学術交流会館 講堂 c 日本語 d 不要(無料)
- e 北海道大学 文学研究科 f 地理情報システム学会北海道支部、北海道GIS・GPS研究会、NPO法人Digital北海道研究会 e 北海道大学 文学研究科 橋本雄一
TEL: 011-706-4019 E-mail: you@let.hokudai.ac.jp
URL: http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/gis/

13 11月9日(土)~10日(日) 9:00~18:00

原子力人材育成事業 第3回 環境放射能に関する国際セミナー ～福島環境修復のための科学的基礎～

- a 文部科学省の補助を受けた環境放射能に関する人材育成事業の一環として、国際的に活躍している海外の研究者らを招へいし、国際セミナーを開催します。福島第一原子力発電所の事故によってもたらされた放射性セシウムによる環境汚染の修復に必要な科学的基礎、最新の研究内容について学ぶとともに、今後の課題について討論します。
- b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 c 英語・日本語(抄訳) d 必要(無料) E-mail、電話またはFAXにて受付 e 原子力人材育成「環境放射能」事務局
- e 北海道大学 工学研究院 エネルギー環境システム部門 原子力環境材料科学研究室 奥山貴子 TEL/FAX: 011-706-6688 E-mail: nsm-jimu@qe.eng.hokudai.ac.jp
URL: http://env-rad.qe.eng.hokudai.ac.jp/

14 学生企画 11月10日(日) 13:00~18:00

第4回 サステナブル・キャンパス・コンテスト ～サステナブルな明日への架け橋～

- a 本コンテストは、北大キャンパスをサステナブルなものにしたいという学生の思いから生まれました。環境問題やサステナビリティに興味がある、或いはキャンパスをより良いものにしたいと考える学生・市民が参加し、キャンパス内の問題の解決策を自由な視点から提案します。
☆コンテスト出場者募集☆ 最優秀賞を獲得したアイデアは、本学の中で中実実験が行われます。
- b 北海道大学 学術交流会館 第1会議室 c 日本語 d 不要(無料)
- e SCSD (The Student Council for Sustainable Development in HU)
- f 北海道大学 サステナブルキャンパス推進本部 e SCSD (The Student Council for Sustainable Development in HU) 松尾悠佑 TEL: 090-9614-2239
E-mail: scsdmail@gmail.com URL: http://scsdhome.web.fc2.com/

すこやかに 人間らしく生きる



ひとり一人が身体的、精神的、社会的に良好な状態
(Well-being)で質の高い生活(Quality of Life)を送る
ことのできるコミュニティをつくります。

15 Web 9月29日(日) 9:00~12:30

自分じゃ気づかない、寝ている間のいびきと歯ぎしり

- a 睡眠中のいびきや歯ぎしりは、まわりに迷惑をかけるだけでなく、歯が欠ける、顎の関節に問題を起こす、睡眠の質を悪くするなど、想像以上に生体に悪影響を及ぼします。睡眠の質の低下が命を落としかねない事故を誘発することもあります。睡眠中のいびきや歯ぎしりから起こりうる問題と検査方法、治療法について、一般市民から専門家までの方々と一緒に勉強する事を目的に、公開講座を開講します。
- b 北海道大学 歯学部講堂 c 日本語・英語(逐次通訳) d 必要(無料) ウェブサイトにて9/28まで受付 e 北海道大学 歯学研究科 e 北海道大学 歯学研究科 有馬太郎
TEL: 011-706-4275 E-mail: tar@den.hokudai.ac.jp
URL: http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/dental/

16 11月1日(金) 10:00~17:00

第1回 農学研究院地域連携企画 現場主義にもとづく持続可能な農村づくり ～農学研究院と道内自治体の連携活動の実績から～

- a 農村地域での人口減少や地域産業の衰退が徐々に進行している状況下、本学農学研究院は、10市町と連携協定を締結し、大学の持つ「農学の力」と自治体・関係機関の連携による、ユニークな農村地域の活性化に向けた取り組みを行っています。今回は、それらの内容を紹介し、自治体首長からの問題提起とそれを受けたパネルディスカッションを開催します。
- b 北海道大学 農学部 大講堂 c 日本語 d 不要(無料) e 北海道大学 農学研究院
- f 北海道新聞社、北の三大学連携(酪農学園大学・北海道大学・帯広畜産大学) e 北海道大学 農学研究院 小林国治 TEL: 011-706-2474 FAX: 011-706-2462
E-mail: kobakuni@cen.agr.hokudai.ac.jp
URL: http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/rural/

17 11月3日(日) 13:00~16:00

保健科学研究院公開講座 ようこそ! ヘルスサイエンスの世界へ

- a 「すこやかに人間らしく生きる(Quality of Life)」をキーワードに、3名の研究者が保健科学の研究を分かりやすく解説します。講演はそれぞれ「リウマチ診療の進歩と画像診断」、「超音波でみる心臓の動きと血液の流れ」、「ストレス社会をしなやかに生きるために～“光”を使って何かができる?～」と題してお話しします。
- b 北海道大学 中央キャンパス総合研究棟 c 日本語 d 必要(無料) 電話またはメールにて10/25まで受付 e 北海道大学 保健科学研究院 e 北海道大学 保健科学研究院 医学系事務部 事務課 TEL: 011-706-3315 FAX: 011-706-4916
E-mail: shomu@hs.hokudai.ac.jp
URL: http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/health/

18 11月7日(木) 12:30~17:00 11月8日(金) 9:00~12:00

第6回 セラミド研究会 学術集会

- a 細胞の脂質成分であるセラミドが、私たちの身体の健康維持、とりわけがん予防、脳機能や皮膚の健康に重要な働きをしていることが最新の研究で明らかになってきました。セラミド研究の進展を目的に、学内外の研究者による講演、ポスター発表などを行います。
- b 学術交流会館 小講堂 c 日本語・英語(通訳なし) d 不要(一般:8,000円 学生:無料) e セラミド研究会事務局 f サッポロ ヘルス イノベーション “Smart-H”
- e 北海道大学 セラミド研究会事務局 FAX: 011-706-9024
E-mail: info@ceramide.gr.jp URL: http://www.ceramide.gr.jp/

調和を見いだす



自然の恩恵を意識しつつ、
環境を損なわずに暮らす道を模索します。

19 10月19日(土) 9:00~17:00

経済学部主催 第10回 プレゼン・ディベート大会 とかい暮らし、いなか暮らし -北海道で「豊か」に暮らすには-

- a 本学の様々な分野の学部生がチームを組み、独自のアイデアを発表し、論戦の中で双方の長短所を検証します。北海道の「いなか暮らし」と「とかい暮らし」の良さを、北海道経済への影響も絡めて、新たな視点で提言します。市民、高校生、大学生、観光・農業・自治体・経済関係者のご来場をお待ちしています。
- b 北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 W103 c 日本語 d 不要(無料)
- e 北海道大学 経済学部 g 北海道大学経済学部主催「第10回プレゼン・ディベート大会」運営事務局 塚田久美子 TEL: 011-706-4066 E-mail: sacade@econ.hokudai.ac.jp URL: <http://www.econ.hokudai.ac.jp/>

20 10月29日(火) 18:00~20:30

時計台サロン 農学部聞いてみよう ~農畜産物と私たちの健康~



- a 時計台サロンは偶数月に札幌市時計台で開催される公開講演会です。巷で関心が高まっている「農」の話題について、農学の研究者が分かりやすく解説し、背景にある課題を広く市民に知っていただく機会です。今回は、「農畜産物と私たちの健康」をテーマに、私たちが日々口にしていく農畜産物の持つ機能性と健康についてお話しします。
- b 札幌市時計台 c 日本語 d 不要(無料) e 北海道大学 農学研究院
- f 北海道新聞社 g 北海道大学 農学事務部 庶務担当 TEL: 011-706-2420 URL: <http://www.agr.hokudai.ac.jp/>

21 Web 11月5日(火) 13:20~17:00

環境・エネルギー国際シンポジウム 持続可能な未来へ ~炭素社会と再生可能エネルギー(仮)~

- a 札幌市とその姉妹都市である韓国・大田市、ロシア・ノボシビルスク市の研究者が集まり、それぞれのエネルギー事情や今後の方向性等の情報を共有します。また、道内の先進的な取り組み事例の紹介を通じ、低炭素社会の実現と再生可能エネルギーの役割、地域経済活性化への期待、産官学民連携の必要性等、今後の北海道における持続可能な社会構築について参加者と共に考えます。
- b 北海道大学 学術交流会館 講堂 c 日本語・英語(同時通訳) d 必要(無料) ウェブサイト、E-mail、FAXまたは電話にて11/4まで受付 e 北海道大学「持続可能な低炭素社会」づくりプロジェクト f 環境省北海道地方環境事務所、札幌市、一般社団法人 北海道再生可能エネルギー振興機構、GreenerWeek運営協議会 g 北海道大学 地球環境科学研究所 荒井真一 TEL: 011-706-3372 FAX: 011-706-3372 E-mail: shinarai@ess.hokudai.ac.jp URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/carbon/jp/>

22 学生企画 11月9日(土) 13:00~17:00

外来生物シンポジウム 生物多様性保全のために外来生物問題とどう取組むか

- a 外来生物は、現在その数を拡大させ、人の暮らし、農林水産業、生態系に大きな影響を与えていますが、有効な対策は進んでいません。北海道の豊かな自然の恵みを未来も変わらず享受していくためにはどうすれば良いのかを考えるシンポジウムを開催します。外来生物の現状とそれに対する対策を紹介し、研究者や専門家と議論を深めます。
- b 北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 c 日本語 d 不要(無料)
- e 北海道大学 文学研究科 地域システム科学講座 保全生態学チーム 田中一典 TEL: 080-1979-5883 E-mail: itanaka@let.hokudai.ac.jp URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/alien/>

23 11月10日(日) 10:00~17:00

泥炭地管理国際会議 熱帯および冷温帯泥炭地管理の在り方とその未来像 ~人と自然の調和とその持続性~

- a 主に熱帯地域と冷温帯地域に分布している泥炭地は、大気中の炭素を固定し泥炭中に蓄えることで成立してきました。しかし、その炭素固定と集積の機能は、周辺地域における人間活動により急激に失われ、逆に巨大な炭素放出源になりつつあります。本会議では、最新の科学技術の活用と、泥炭地とその周辺地域における人間活動の仕組み作りを紹介し、持続可能な低炭素社会実現について議論します。
- b 北海道大学 百年記念会館 c 英語 d 不要(無料) e 北海道大学 サステナビリティ学教育研究センター g 北海道大学 サステナビリティ学教育研究センター 百田恵理子 TEL: 011-706-4586 FAX: 011-706-4534 E-mail: eriko@census.hokudai.ac.jp URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/peatland/>

24 11月21日(木) 13:30~17:00

経済学研究科 REBN シンポジウム 観光地アメニティによる地域活性化への路 -マーケティングからの提言-

- a 観光による地域活性化には、観光スポットだけでなく、その地域全体の快適性(アメニティ)・魅力を高めることが重要です。北海道のように自然環境が観光の重要な要素であれば、とりわけ、アメニティはサステナブルなものでなくてはなりません。アメニティとサステナビリティの両立、という難題にどのように取り組めば良いのかを、観光産業のマーケティングという視点から実務家、研究者が語ります。
- b 北海道大学 クラーク会館 講堂 c 日本語 d 不要(無料) e 北海道大学 経済学研究科 地域経済経営ネットワーク研究センター(REBN)
- f 日本ダイレクトマーケティング学会 g 北海道大学 経済学研究科 地域経済経営ネットワーク研究センター事務局 塚田久美子 TEL/FAX: 011-706-4066 E-mail: sacade@econ.hokudai.ac.jp URL: <http://rebn.econ.hokudai.ac.jp/>

協力ネットワーク を広げる



国境を越えた協力をさらに進めるため、海外協定校や
国際機関と協力して行事を開催します。

25 9月24日(火) 9:30~16:00

国際シンポジウム アジアにおけるサステナビリティ学の展開

- a 本シンポジウムは、サステナビリティ学教育研究センターの中国の協力機関である浙江大學において開催します。アジアにおけるサステナビリティ学の現状と展望について、先進国である日本、中進国の台湾と中国、そして途上国のブルキナファソとインドネシアから、それぞれの視点に基づき議論を行います。サステナビリティ学全体の概況のほか、エネルギー、住宅、気候変動、水などの各問題も取り上げます。
- b 浙江大學(中国) c 英語 d 不要(無料) e 北海道大学 サステナビリティ学教育研究センター
- f 浙江大學(中国) g 北海道大学 サステナビリティ学教育研究センター 谷島稔 TEL: 011-706-4530 FAX: 011-706-4534 E-mail: jimu@census.hokudai.ac.jp URL: <http://www.census.hokudai.ac.jp/>

26 Web 10月25日(金) 16:00~

特別講演 パーマカルチャー ~持続可能な農業を目指して~

- a 仏政府関連機関の協力のもと、昨年に続き2回目となる講演会を開催する。農業技師 クロード・ブルギニョン氏(元国立農業研究所研究員)は、バイオマスや土壌の微生物(バクテリアや菌類)の豊かさが失われていく事に世界で初めて警鐘を鳴らした一人です。今回は、「パーマカルチャー」をテーマに、氏の活動内容を伺うとともに、本学農学研究院の研究者と議論を交わします。
- b 北海道大学 農学部 c フランス語・日本語(逐次通訳) d 必要(無料) メールまたはウェブサイトに10/23まで受付 e 札幌日仏協会/札幌アリアンス・フランセーズ、アンスティチュ・フランス日本 f 北海道大学 農学研究院・国際本部 g 札幌アリアンス・フランセーズ 平岡智成 TEL: 011-261-2771 E-mail: bureau@afsapporo.jp URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/france/>

27

10月29日(火) 13:00~16:00

第4回 ESD 国際シンポジウム
国際協同教育の開発 ~ESD キャンパスアジアの挑戦~

a 教育学研究院がアジアの大学と協同で実践してきたESD 国際教育を、他の参加大学がどのように捉え、実践しているかを討議します。同時に、国際協同教育の在り方と展望についても議論していきます。各国の教員および学生が一堂に会し、あるいは相互に訪問しあいながら、世界的課題を共有することによって生まれる新たな国際協同教育の可能性を探ります。

b 北海道大学 学術交流会館 講堂 **c** 日本語・英語(逐次通訳) **d** 不要(無料)

e 北海道大学 教育学研究院 **f** ソウル国立大学校(韓国)、高麗大学(韓国)、北京師範大学(中国)、チュロンコン大学(タイ) **g** 北海道大学 教育学研究院 水野眞佐夫
TEL: 011-706-5440 E-mail: mizuno@edu.hokudai.ac.jp
URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/esd/>

32

11月4日(月・祝) 13:30~17:00

国際シンポジウム 触発する映画 ~女性映画の批評力~

a 女性監督たちの手による「女性映画」は、ジェンダーおよびセクシュアリティの表現を最も批評的かつ創造的に探求してきたジャンルだといえます。本シンポジウムでは、「女性映画」に焦点を当て、持続可能なジェンダー・セクシュアリティ平等や文化多様性の観点から、そのポテンシャルについての再考を試みます。

b 北海道大学 学術交流会館 講堂 **c** 日本語・英語(同時通訳) **d** 不要(無料)

e 北海道大学 文学研究科 応用倫理研究教育センター **g** 北海道大学 文学研究科 瀬名波栄潤 TEL: 011-706-4085 E-mail: june@let.hokudai.ac.jp
URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/gender/>

北海道大学 - フィンランド ジョイントシンポジウム

c 英語 **d** 不要(無料) **e** 北海道大学、オウル大学、ラップランド大学
f フィンランド日本教育協会

28 オープニングセッション

10月31日(木) 午前

a 昨年はフィンランドのオウル大学で開催したジョイントシンポジウムを、今年は本学で開催します。最新の研究成果を共有する分科会に先立ち、オープニングセッションでは、オウル大学とラップランド大学から代表者を迎え、今後の協力の可能性について議論します。

b 北海道大学 医学部学友会館フラテホール
g 北海道大学 国際本部 国際連携課 佐藤ひとみ TEL: 011-706-8025
FAX: 011-706-8036 E-mail: global@oia.hokudai.ac.jp
URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/finland/>

29 分科会:1
北方圏における生態系サービスのリスク管理と持続的社会的構築

11月1日(金) 13:00~18:00

a 地球人口の60%以上が生活する北方圏沿岸域は、気候変動や震災などの自然の脅威と温暖化や環境破壊などの人為的インパクトにより攪乱されています。本シンポジウムは、順応的管理と予防原則をベースとしたリスク管理による北海道、北米および北欧の「北方圏生態系の生物多様性の維持」と「持続可能な低炭素社会づくり」の枠組構築について議論します。

b 北海道大学 医学部 特別会議室
g 北海道大学 地球環境科学研究所 藤井賢彦
TEL: 011-706-8042 FAX: 011-706-2359
URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/northern/>

30 分科会:2
少子高齢社会における健康 ~持続可能な発展に向けて~

11月1日(金) 13:00~17:00

a 医学研究科は、学生・若手研究者の研究教育の推進を目的に、09年、大学間協定校8大学をメンバーとして「グローバルヘルス研究、教育、およびトレーニング」を目的とした国際コンソーシアムを設立しました。これまでに札幌、ペラデニヤ、ソウル等で会議を開催、学生交流や共同研究を実施しています。今回はフィンランドの大学が加わり、それぞれの国が抱える少子高齢化の諸問題を比較検討し、持続可能な発展に向けた対策やそのための共同研究などの可能性を模索します。

b 北海道大学 医学部学友会館フラテホール **f** 北海道大学 工学研究院 **g** 北海道大学 医学研究科 予防医学講座 国際保健医学分野 新井明日奈 TEL: 011-706-5051
FAX: 011-706-7374 E-mail: sw2013@ghe.med.hokudai.ac.jp
URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/ageing/>

31 11月2日(土)~4日(月・祝) 10:00~17:00

東アジアメディア文化交流プロジェクト
越境するメディアと東アジア

a 本プロジェクトは、日中韓の相互理解を深めると同時に、本学並びに北海道の国際化の推進を狙って企画されました。3日間の学術イベントを通じて、北海道を基盤とする専門家や活動家、市民、学生などが集まり、(1) 東アジア文化の「いま」、(2) 過去10年間の韓流ブームと今後の日韓の文化的関係、(3) 東アジアが共有する歴史の記憶とメディアの問題について討議します。

b 北海道大学 学術交流会館 小講堂(2・4日)、遠友学舎(3日) **c** 日本語・韓国語・中国語(逐次通訳) **d** 不要(無料) **e** 北海道大学 メディア・コミュニケーション研究院付属東アジアメディア研究センター **g** 北海道大学 メディア・コミュニケーション研究院 金成玖(キム・ソンミン)
TEL: 011-706-6940 E-mail: kim@imc.hokudai.ac.jp
URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/media/>

33 Web

11月5日(火) 9:30~18:00

日露学術シンポジウム 知られざる極東ロシア ~北大による連携研究の成果~

a 東北アジア地域の多国間関係の中で、日露関係は最も重視されるべきものの一つと位置づけられています。本学は、我が国において、極東ロシアとの自然科学分野の協力活動を最も活発に取り組んでいます。本学のこれまでの取り組みを、カウンターパートのロシア人研究者や国内の関連研究者も交えて紹介するとともに、今後の協力のありかた、可能性を探るシンポジウムを開催します。

b 北海道大学 環境科学院 D201 **c** 日本語・ロシア語(逐次通訳)
d 必要(無料) ウェブサイトにて受付 **e** 日露学術シンポジウム実行委員会
f 国際科学技術センター **g** 北海道大学 創成研究機構 URA ステーション 田中晋吾
TEL: 011-706-9579 E-mail: tanaka-s@cris.hokudai.ac.jp
URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/russia/>

34 Web

11月5日(火) 13:30~17:00

国際シンポジウム
サステナブルで安心な社会の構築へ向けて ~予防という考え方~

a 持続可能で人々が安心して生活できる社会をつくるために、環境と健康に関して「予防」という考え方がどのように役立つかを専門家と市民と一緒に学び、考えるための企画です。予防的方策の歴史的背景や各国の事例を紹介するほか、予防的方策とはどのような考え方を意味するのか、私たちの暮らしの安全に役立つのか、環境を起因とする健康ダメージを避けることにどう役立つのか、などを考えます。

b 北海道大学 学術交流会館 小講堂 **c** 日本語・英語(同時通訳) **d** 必要(無料) ウェブサイト、E-mail、FAXまたは電話にて受付 **e** 北海道大学 環境健康科学研究教育センター **f** 北海道大学 保健科学研究院、医学研究科、教育学研究院、メディア・コミュニケーション研究院 **g** 北海道大学 環境健康科学研究教育センター 荒木、高橋 TEL: 011-706-4746 FAX: 011-706-4725
E-mail: info@cehs.hokudai.ac.jp URL: <http://www.cehs.hokudai.ac.jp>

35 11月15日(金)~17日(日)

先住民文化遺産とツーリズム
~生きている遺産の継承と創造~

a 先住民族の有形・無形文化遺産の独自性を明らかにし、有効に保存・活用しながら次世代へ継承していく方策について、国際的な視野から議論するシンポジウムです。世界無形文化遺産の制定に尽力されたユネスコ前事務局長・松浦晃一郎氏とIPinCH(文化遺産における知的財産権研究)プロジェクトの代表を務めるG. ニコラス教授(サイモン・フレイザー大学)らをお迎えし基調講演を行います。

b 北海道大学 学術交流会館、北海道沙流郡平取町(17日) **c** 日本語・英語(同時通訳)
d 不要(無料) **e** 北海道大学 アイヌ・先住民研究センター **f** 北海道大学 観光学高等研究センター **g** 北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 岡田真弓 TEL: 011-706-2317
FAX: 011-706-2859 E-mail: m-okada@let.hokudai.ac.jp
URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2013/ainu/>

36 12月9日(月)~10日(火)

第1回 北海道大学
サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト 国際大会

a 5年目を迎える「学生研究ポスターコンテスト」は、その規模を拡大し、国内外の他大学からの参加を得て、国際大会を開催します。本学からはサステナビリティ学生研究ポスターコンテスト(プログラムNo.9)の優秀者が出場します。12月9日には、発表・審査が行われます。世界中の学生が自らの研究を「持続可能な社会づくりへの貢献」と結びつけ、どのように未来を見据えているのかを知る機会です。

b 北海道大学 遠友学舎 **c** 英語 **d** 観覧者: 不要(無料) **e** 北海道大学
g 北海道大学 サステナビリティ・ウィーク事務局(国際本部内)
TEL: 011-706-8031 E-mail: sw2@oia.hokudai.ac.jp
URL: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/students/>

イベントスケジュール

● 主な対象

日 程		行 事 名	専門家	市 民	大学生 院 生	高校生	その他	4	6	7
9月10日(火)～12日(木)	2	第2回 サステナビリティ学生環境シンポジウム: 持続可能な消費		●	●					
9月24日(火)	25	国際シンポジウム: アジアにおけるサステナビリティ学の展開	●		●					
9月29日(日)	15	自分じゃ気づかない、寝ている間のいびきと歯ぎしり	●	●	●	●	歯科医			
10月17日(木)	3	STAND UP TAKE ACTION in Hokudai		●	●	●				
10月19日(土)	19	経済学部主催 第10回 プレゼン・ディベート大会		●	●	●				
10月21日(月)～11月4日(月・祝)	4	図書館展示: 学術成果のオープンアクセスとHUSCAP	●	●	●	●		10/21		
10月23日(水)	5	北大×JICA連携企画: 持続可能な社会をつくる日本の海外ボランティア		●	●	●				
10月25日(金)	26	特別講演: パーマカルチャー	●	●	●					
10月26日(土)	1	SW2013 記念企画 GiFT: 2013 ～ Global Issues Forum for Tomorrow ～		●	●	●				
10月26日(土)～11月10日(日)	6	白夜の北極紀行: グリーンランドと氷河氷床調査に関する企画展示		●	●	●			10/26	
10月29日(火)	20	時計台サロン: 農学部に聞いてみよう		●						
10月29日(火)	27	第4回 ESD国際シンポジウム: 国際協同教育の開発	●	●	●					
10月31日(木)～11月4日(月・祝)	7	CLARK THEATER 2013		●	●	●	中学生 以下			10/31
10月31日(木)	28	北海道大学 - フィンランド ジョイントシンポジウム: オープニングセッション	●	●	●					
11月1日(金)	29	北方圏における生態系サービスのリスク管理と持続的社会的構築	●	●	●					
11月1日(金)	30	少子高齢社会における健康	●	●	●					
11月1日(金)	16	第1回 農学研究院地域連携企画: 現場主義にもとづく持続可能な農村づくり	●	●	●					
11月1日(金)	8	留学希望者向けセミナー: SD on Campus			●					
11月2日(土)～4日(月・祝)	31	東アジアメディア文化交流プロジェクト: 越境するメディアと東アジア	●	●	●	●				
11月3日(日)	17	保健科学研究院公開講座: ようこそ! ヘルスサイエンスの世界へ		●	●	●				
11月4日(月・祝)	32	国際シンポジウム: 触発する映画 ～女性映画の批評力～	●	●	●			11/4 まで		11/4 まで
11月5日(火)～7日(木)	9	第5回 北海道大学サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト	●	●	●					
11月5日(火)	21	環境・エネルギー国際シンポジウム: 持続可能な未来へ	●	●	●					
11月5日(火)	33	日露学術シンポジウム: 知られざる極東ロシア	●	●	●	●				
11月5日(火)	34	国際シンポジウム: サステナブルで安心な社会の構築へ向けて	●	●	●					
11月6日(水)	10	北大アフリカ研究会シンポ: アフリカで活躍する北大の研究者たち		●	●	●				
11月6日(水)	11	サステナブルキャンパス国際シンポジウム2013	●	●	●					
11月7日(木)～8日(金)	18	第6回 セラミド研究会 学術集会	●	●	●					
11月7日(木)	12	産学官セミナー: 地理空間情報が招く未来 V ビッグデータの衝撃	●	●	●					
11月9日(土)～10日(日)	13	原子力人材育成事業: 第3回 環境放射能に関する国際セミナー	●	●	●					
11月9日(土)	22	外来生物シンポジウム: 生物多様性保全のために外来生物問題とどう取組むか		●	●					
11月10日(日)	14	第4回 サステナブル・キャンパス・コンテスト		●	●	●				
11月10日(日)	23	泥炭地管理国際会議: 熱帯および冷温帯泥炭地管理の在り方とその未来像	●	●	●					
11月15日(金)～17日(日)	35	先住民文化遺産とツーリズム ～生きている遺産の継承と創造～	●	●	●					
11月21日(木)	24	経済学研究科 REBN シンポジウム: 観光地アメニティによる地域活性化への路	●	●	●	●				
12月9日(月)～10日(火)	36	第1回 北海道大学サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト 国際大会	●	●	●					

※行事が変更になる場合があります。最新の情報はウェブサイトにてご確認ください。 <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/>

会場案内図

札幌キャンパスマップ



A 学術交流会館 1 10/26[土] 9 11/5[火]~7[木] 27 10/29[火] 10 11/6[水] 31 11/2[土]~4[月] 11 11/6[水] 32 11/4[月] 12 11/7[木] 21 11/5[火] 18 11/7[木]~8[金] 14 11/10[日] 34 11/5[火] 13 11/9[土]~10[日] 35 11/15[金]~16[土]	
B 百年記念会館 23 11/10[日]	
C クラーク会館 7 10/31[木]~11/4[月] 24 11/21[木]	
D 農学部 26 10/25[金] 16 11/1[金]	
E 図書館本館 3 10/17[木] 4 10/21[月]~11/4[月]	
F サステナビリティ学教育研究センター 2 9/10[火]~12[木]	
G 環境科学院 33 11/5[火]	
H 人文・社会科学総合教育研究棟 19 10/19[土] 22 11/9[土]	
I 総合博物館 6 10/26[土]~11/10[日]	
J 中央キャンパス総合研究棟 17 11/3[日]	
K 歯学部 15 9/29[日]	
L 医学部 28 10/31[木] 29 11/1[金] 30 11/1[金]	
M 国際本部 5 10/23[水] 8 11/1[金]	
N 遠友学舎 31 11/3[日] 36 12/9[月]~10[火]	
O 札幌市時計台 20 10/29[火]	

サステナビリティ・ウィーク 2013 事務局

北海道大学国際本部内

〒060-0815 北海道札幌市北区北15条西8丁目
 電話: 011-706-8031 FAX: 011-706-8036
 E-mail: sw1@oia.hokudai.ac.jp

■詳しい情報はウェブサイトで公開しています。

<http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/>
<http://www.facebook.com/SW.Hokkaido.u/>

R100
 古紙配合率100%再生紙を使用しています。

PRINTED WITH SOYINK
 Produced by Soy Inks System Association

【お詫びと訂正】

パンフレットにおきまして、記載に誤りがありました。正しくは以下の通りです。

○プログラム No. 23

『泥炭地国際会議： 熱帯および冷温帯泥炭地管理の在り方とその未来像』

（誤）11月10日（日）

（正）10月10日（木）

参加者の皆様ならびに関係各位にご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

サステナビリティ・ウィーク2013を振り返って



サステナビリティ・ウィーク2013 実行委員長
国際担当理事・副学長 上田 一郎

7回目となる今年のサステナビリティ・ウィークのテーマは、「持続可能な社会の構築に向けた学び」としました。2014年に国連「持続可能な開発のための教育の10年」キャンペーンが最終年を迎えるのを前に、サステナブルな社会とは何か、そしてその実現のために私にできることは何かを共に「学ぶ」ことにスポットライトを当て、40企画を開催しました。

総括

本年最初の行事が学生企画であったのは、とても喜ばしい出来事でした。9月10日(火)から3日間開催された「サステナビリティ学生環境シンポジウム」の副題は「食の未来に向けて私たちができること」とあり、まさしく主体的に考える企画でした。同時に、このシンポジウムは本学の留学生がイニシアチブをとり、本学の日本人学生のみならず他大学の学生とも協働して企画、実施したということですから、そのプロセスでも素晴らしい学びがあったことでしょう。そして最後の行事が12月9日(月)・10日(火)に開催された、「第1回 サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト 国際大会」でした。世界から集まった学生発表者が準備のプロセスと当日の発表・議論を経て成長の手応えを得たと共に、聴衆者も大いに知的刺激を受けたとのことでした。

これらのことに象徴されるように、国内外の様々な機関との共催、最先端の研究成果の共有、そして活発な議論を通じ、多くの気づきを与えたり考えを深めたりして自らを高めていくような学びの機会が数多く創出されたことが、各行事の報告からうかがえます。



「サステナビリティ学生環境シンポジウム」を牽引した学生



パンフレットBOXのついた
サステナビリティ・ウィークの看板



ベロタクシー初動の瞬間



授賞式の記念写真

12月11日(水) 開催

「第1回北海道大学サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト国際大会授賞式」にて

今後に向けて

叡智や課題を分かち合い共感することを通じて、新たな未来を切り拓く心、ちから、仲間を育み続けるために、来年もサステナビリティ・ウィークを開催します。2014年10月25日～11月9日を中心、持続可能な社会の実現の担い手が世界中から集まれるよう準備を進めますので、今後とも皆様のご理解とご参加をお願い申し上げます。